



日産自動車 × KONDO Racing × 日産自動車大学校

『自らのGTチャレンジ!』

NISSAN MECHANIC CHALLENGE



2019 AUTOBACS SUPER GT Round 5 FUJI GT 500mile RACE

レポート 日産横浜自動車大学校 学生広報

2019年8月2日~8月4日 FUJI SPEED WAY



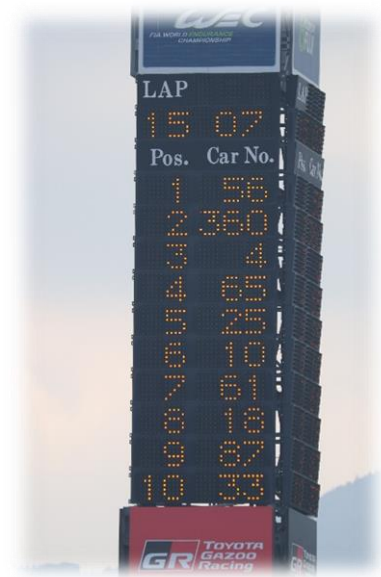


予選

8月3日

天気：曇り 気温：31℃

午前の公式練習を無事に終えた 56 号車は、順調に午後の予選を迎えた。Q1 担当の平峰選手は、第 2 戦ポール・ポジションを獲得した得意な富士を舞台に素晴らしい走りを見せた。ライバルたちが軒並み高タイムを叩き出す中、コースインしてから僅か 3 周目、1' 37.521 のトップタイムをマーク。その後追いつくライバルもなく、平峰選手は Q1 を見事トップ通過してみせたのだった。

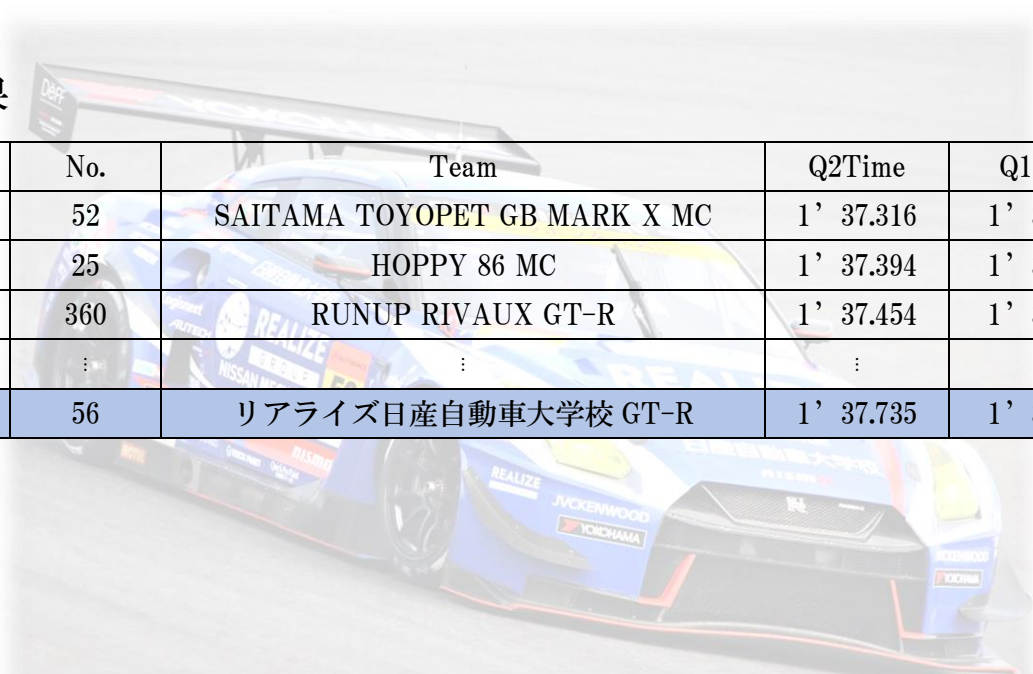


GT500 クラスの Q1 を挟み、GT300 クラスの Q2 がスタート。開幕戦以来となる Q2 担当のサツシャ選手も素晴らしい走りを見せ健闘したが、惜しくも 6 番手で予選を終えた。しかし、上位 10 台中で最も重い 54kg ものウェイトを載せた上での 6 番手は大健闘であると言える。2 人のドライバーの相性の良さ、メカニックが仕上げた最高のマシン、連携した強いチームワークがあるからこそ成せた予選であったと振り返る。

予選結果

Pos.	No.	Team	Q2Time	Q1Time
1	52	SAITAMA TOYOPET GB MARK X MC	1' 37.316	1' 38.569
2	25	HOPPY 86 MC	1' 37.394	1' 37.912
3	360	RUNUP RIVAUX GT-R	1' 37.454	1' 37.534
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
6	56	リアライズ日産自動車大学校 GT-R	1' 37.735	1' 37.521

決勝





8月4日

天気：晴れ 気温：33℃

前日の予選で好タイムをマークしていた56号車であったが、夏の長距離レースで重いウェイトハンデを抱えるのは、決勝レースではかなりの苦戦を強いられた。セーフティカーの導入でPITのタイミングが計画通りに行えなくなり、また、残り4周での最終コーナーで他チームとの接触でスピンしてしまう等、アクシデントが色々あったが、チーム全員の頑張りによりGT-R勢では最高位の7位でチェッカーを受けた。

第5戦富士500mileの特別ルールにより7位だと通常4ポイントのところ5ポイントを獲得しドライバーランキング2位に浮上し、シリーズチャンピオンへ望みを繋げた。4.5ポイント差で1位の55号車を追いかける。

今回の結果を受け菅生の公式テストにも参加した56号車のこれからの活躍に期待したい。



決勝結果

Pos.	No.	Team	Total Time	Diff
1	87	T-DASH LAMBORGHINI GT3	4 : 54' 37.976	—
2	52	SAITAMA TOYOPET GB MARK X MC	4 : 55' 44.878	1LAP
3	34	Modulo KENWOOD NSX GT3	4 : 55' 47.030	1LAP
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
7	56	リアライズ日産自動車大学校 GT-R	4 : 56' 14.136	1LAP





ドライバーインタビュー

平峰 一貴選手

サッシャ・フェネストラズ選手



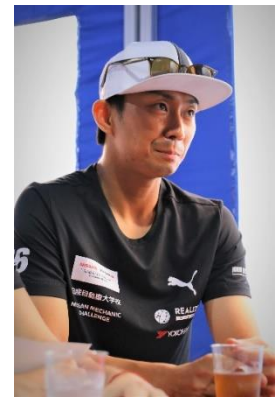
Q.予選での走行を終えてどうでしたか？

平峰選手：感触としては非常に良い状態で、今回から60キロのハンディウエイトを背負った状態でもマシンのスピードも速かったのでQ1でトップタイムを出すことが出来ました。

サッシャ選手：基本的に難しい予選でした。久しぶりのQ2でもあったし、アタック自体も悪くなかったので、決勝も頑張っていきたいです。

Q.このプロジェクトは今年でスーパーGTにステップアップしましたが、学生の動きはどうでしたか？また、学生に求めることはありますか？

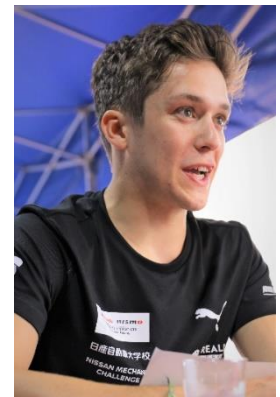
平峰選手：このプロジェクトはスーパー耐久（S耐）から8年目に入り、皆さんの動きはS耐よりさらに良い意味でプレッシャーを感じながら活動していると思います。また、僕らも成長できていることがありがたいと思います。学生さんに求める事は、言葉で言うことは簡単ですけど、「頑張る続ける事」です。どんな状況の中でも、周りにどんな事を言われても、ちゃんとした道筋で頑張る続ける事はとても大事な事なので、どれだけ自分と戦えるかだと思います。



平峰選手

Q.ドライバーから見たスーパーGTの魅力教えてください。

サッシャ選手：みんな競争力があって、GT500との混走もある中で走れるからとても面白い。僕のレース人生もこのスーパーGTでキャリアを積み重ねていきたいです。



サッシャ選手

Q.明日の決勝に向けての意気込みを教えてください。

平峰選手：今シーズンの中で1番多くポイントを稼げるレースなので、多くのポイントを取りたいです。気温も高いので、体調管理をしっかりしながら頑張りたいと思います。

サッシャ選手：6番手からのスタートになるが、ノーミスでタイヤも労わってクリーンなレースにしたいです。





T/S インタビュー 《参加 TS6 名の方にお伺いしました》

Q.このプロジェクトに参加された目的は何ですか？

- ・” やってみたい” と思ったからです。
- ・モータースポーツが好きだったからです。
- ・メンテナンスやアライメントを学ぶためです。
- ・整備士としての経験を生かしたいと思ったからです。
- ・いろんな人とコミュニケーションを取ったり、いろんな経験をすることで人として成長したいと思ったからです。



Q.普段販売会社で扱われている市販車と今回の GT マシンとの違いはどんなところですか？

- ・比較は難しいですが、確実に作業を行うと言う事は同じです。
- ・車の精度やタイヤの管理のシビアさは桁違いでした。
- ・GTマシンは車自体が整備しやすい工夫がされているなどの差です。



Q.このプロジェクトを通じて得られたものは何ですか？

- ・測定の基本や指示に対してしっかり動くことです。
- ・お互いの信頼や短時間で確実に作業を行うことです。
- ・整理整頓などの整備作業の基本や、安全に作業を行うことの重要性です。
- ・チームワークやコミュニケーションの重要性です。
- ・ドライバーの命を預かっているということの再認識です。
- ・全体の流れを考えて作業することです。
- ・突如のトラブルにも対応できるようにする柔軟性です。



Q.学生に就職に向けてのアドバイスをお願いします。

- ・資格を必ず取得することです。
- ・1つのことを頑張っていることです。
- ・勉強の細かいところまで振り返りをするということです。
- ・目標を立てて逆算し、具体的にどうすれば良いのか考えることです。
- ・いろんな人と会話して意見を聞き、たくさんの情報を集めることです。





学長インタビュー

Q.学生にどんなことを期待しますか？

本廣学長：自ら進んで行動や、発言するなど自発的に参加してもらいたいです。そして重要なのが、この4日間で信頼や協力のできる「仲間」を皆さんが作れる事に期待しています。

Q.このプロジェクトの魅力とは何ですか？

本廣学長：メカニックや整備士などの先輩方と一緒に活動し交流することで、自分の将来像を作る材料が得られる貴重な場でもあり、先輩や仲間とのコミュニケーションを深めることで協調性も生まれると思います。



本廣学長

Q.これからこのプロジェクトがどう発展していったほしいとお考えですか？

本廣学長：この活動を経験した人達が、学校のクラス内や友人に情報共有して他の人にも知ってもらい、多くの人に広まってほしいです。また、この活動でメカニックや整備士との交流から就職先や進路先として目指してもらえきっかけとなってほしいです。

校長インタビュー

Q.学生に今回の活動を通じて学んでもらいたいことは何ですか？

石井校長：感謝の心を持つこと。この活動には多くのパートナー企業様、KONDO RACING 様、そして日産自動車の支えがあって実現できている。学生達には感謝の心を忘れずに活動することを学んでもらいたいですね。

Q.このプロジェクトの魅力とは何ですか？

石井校長：この活動は、本物のレース現場から車の魅力を見つけてもらえる貴重な体験の場であると考えています。レース現場では様々な仕事をする人がいて、どんな仕事をしているかを間近で確認でき、発見してもらえるチャンスも多くある為、様々な観点で魅力あるプロジェクトだと思います。



横浜校 石井校長

Q.これからこのプロジェクトがどう発展していったほしいとお考えですか？

石井校長：今回の活動では約50名の生徒が参加しています。実際は、他にも参加したい生徒は多くいると思います。ちょっとしたきっかけでも良いから、他の生徒にも是非参加してもらって、活動した感想を他の生徒と共有して、より多くの学生が参加してもらえるように発展してほしいですね。





学生の活動の様子

テクニカル部門

タイヤ交換のサポートや車両清掃、車両移動、ピットワークでの景品配りを行いました。スタッフ学生は、GTマシンを目の前に緊張した面持ちでしたが、KONDO RACINGのメカの方、先輩整備士の方と作業を共にすることにより、一つでもプロの技術を盗んでいこうとみんな必死に、そして真剣に取り組んでいました。



マネジメント部門

パートナー企業様などお客様へのおもてなしを行います。お弁当やお飲み物を提供するホスピタリティ全体を担当しました。学校の授業で学んだ事を実行する場となりますが、お客様に気持ちよく過ごしていただけるようみんなで常に意見を出し合い、その場で改善していく事により良い接客を目指して努力していました。夜のミーティングでもみんな活発に意見を出し合っていました





PIT マネージャー部門

主にドライバーの近くについてヘルメット等の身の回りのお手伝いやドリンクの準備、ピットウォークでのドライバーのサイン会のお手伝いなどを担当しました。ドライバーが気持ちよく走る事に専念できる様、コントローラーさんの説明をよく聞いて真剣な表情で取り組んでいました。



活動を振り返って。

今回、広報担当はリーダー含め、メンバー全員がこのプロジェクトに初めて参加しました。

そんな右も左もわからない状態でリーダーなんて大丈夫なのかと不安ではありましたが、せっかくの機会ですので精一杯やろうという意気込みで臨みました。

率直な感想としましては、学生全員が緊張感と責任をもって真剣に取り組んでいると感じました。

学生の裏方の活動はあまり目立ちませんが、チームみんなで連携を取って取り組んでいて、普段はともに学校生活を送っている仲間ですが、このプロジェクトではいつもよりたくましく見えました。

広報の仕事では、ピット内に入って写真を撮ったり、ドライバーのお二人をはじめたくさんの方々から直接お話を伺ったりと、普段体験できないとても貴重な経験をさせて頂きました。

今回一番大変だったのはインタビューでした、全員が初参加ということもあり、アポイントの取り方やインタビュー内容などどうするのが良いのか必死に考えましたが、終わってみるとああすれば良かったこうすれば良かったと反省する点ばかりです。

私は3年生なので今回で最後になってしまいますが、また来年、広報部をやる後輩達には後悔の無いように精一杯取り組んでもらいたいと思います。

広報リーダー 一級自動車工学科 3年 横山 雄大

